

中国の「清明節」と日本の「清明祭」

JSC 貿易部ニュース

麗春の候、貴社にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は特段のご愛顧にあずかり誠にありがとうございます。

さて、タイトルの「清明（せいめい）」とは、季節の指標である「二十四節気」の5番目の節気のこと。「すべてのものが清らかで生き生きしている」という意味で、季節で言うと空が澄み、草花が活気づく今の時期にあたります。

ちなみに、今年は4月5日（水）～4月19日（水）がその期間にあたります。

私たち日本人にはあまり馴染みのない「清明」ですが、中国では「清明節（せいめいせつ）」と呼ばれる大切な日。簡単に言いますと、お墓を掃除して先祖供養をする、日本のお盆のようなものです。



中国ではお墓参りをします

中国、台湾、香港などの中華圏では、春分の日から15日目が「清明節（せいめいせつ）」と呼ばれる祝日になります。

この日はお墓を掃除して墓参りをするため、「掃墓節（そうぼせつ）」とも呼ばれていて、日本でいう「お盆」に相当する日とも言えます。

この「清明」という言葉とお墓にまつわる年中行事、日本でも「清明」という呼び名で年中行事として定着している地域があるのをご存じでしょうか。

日本の「清明祭」

沖縄では中国からこの行事が伝わり、清明祭（シーミー）または御清明（ウーシーミー）と呼ばれ根付いています。



18世紀初めに中国から伝わった習慣で、シーミーの習慣があるのは日本では沖縄のみです。

現在でも沖縄では5月のゴールデンウィーク頃までの間、週末を中心に家族でお墓参りに行き、墓前には親戚一同が集います。

シーミーでは先祖のお墓に親戚一同が集まり、お墓掃除をしてお供えをした後、お墓の前で宴会をしますが、その姿は沖縄の季節の風物詩となっています。

沖縄特有の大きなお墓の前でレジャーシートを敷き、みんなでごちそうを食べて、賑やかに過ごす沖縄の人々姿をニュースなどでご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。

沖縄のお墓には、そのための墓庭があるのも大きな特徴といえます。最近では昔と違い火葬が一般的になり、また家族墓が増えてきたことによりお墓は小さくなっていますが、今でも墓庭のスペースを取ってあるお墓は多いそうです。

シーミーの時期は大勢がお墓参りに行くため交通量が増え、お墓がある墓地や霊園などの周辺は交通渋滞が起こるほどだそうです。

そういえば、以前体験したことがあるのですが、中国の「清明節」でもお墓の前に手料理を持っていき、皆で食べたりする地域が多く、爆竹を鳴らしたりしてとても賑やかだった記憶があります。



春を運んでくる「清明風」

清明の頃には、南東から「清明風」と呼ばれる穏やかな風が吹いてきます。

これは、冷たい北風の季節が終わり、春の到来を知らせてくれる風。

日本でも、この時期になると晴れの日が暖かくて湿度も低く、とても過ごしやすくなりますね。

また、この頃のやわらかく静かに降る雨は、「発火雨（はっかう）」や「桃花（とうか）の雨」などとも呼ばれています。桃の花に降る雨が、遠目には火を発しているように見えることが語源だそうです。雨の日でも濡れた若葉の緑が清々しく見え、本当に気持ちのいい季節です。

今月の石種情報

早くも4月、桜の咲く季節になりました。今年は例年よりも開花がかなり早く、3月末には満開のピークを迎えています。

さて、今回ご紹介の石種は、そんな桜の「花びら」や「桃」を連想させる、ピンクや赤の石のご案内です。

まずは「G663」。値上がりだけでなく、各工場の原石在庫量が少なくなってきており、ご心配をお掛けしております。

しかしながら、根強い支持をいただいている石で、「定番から外せない」といったお声も耳にします。ご相談いただければ探しますので、まずはお声掛け下さい。



「インド八重桜」



「ライチレッド」

赤系の石も女性のお客様に人気がございます。

但し、色物の石は写真と実物に色差がありますので、是非サンプルをお手にとってご確認下さい。ご興味ございましたら、当社営業担当まで気軽にお問い合わせ下さいませ。

今月のメルマガはここまでとなります。皆様のご健康と益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

新年度4月からも変わらぬご愛顧賜りますようお願い申し上げます。